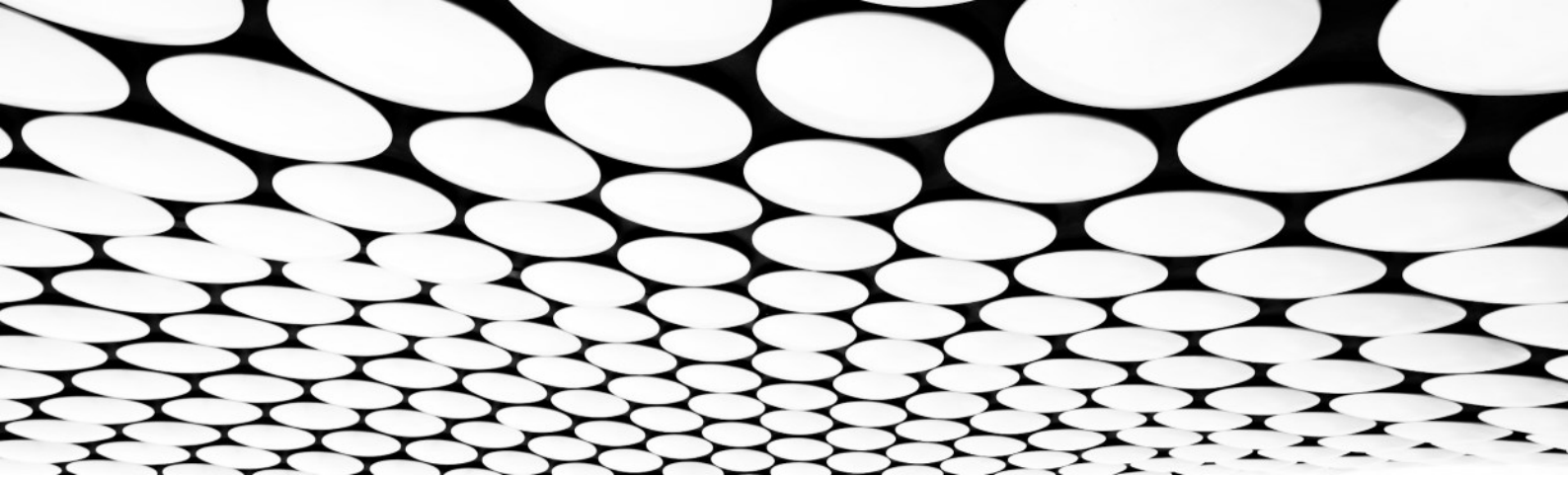


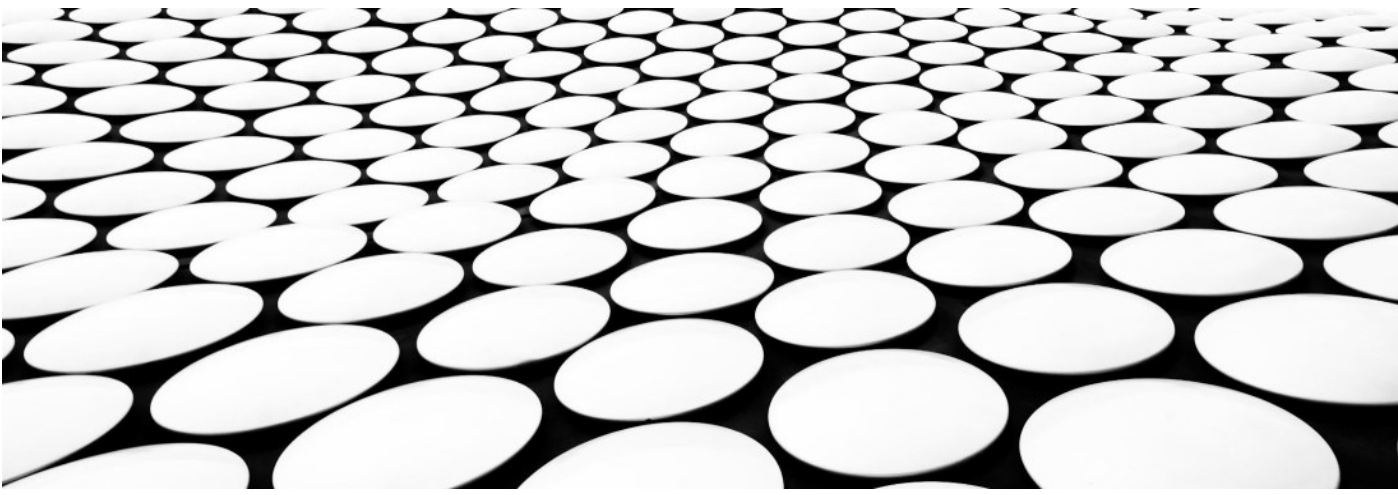


COUNTER

リリース 5.1

コンソーシアム（
団体）向けの
COUNTER

フレンドリーガイド



この冊子は、COUNTERリリース5.1実務指針をわかりやすく説明した「フレンジリーガイド」シリーズの一部です

このシリーズは、以下の冊子から成り立っています。

- COUNTERレポートの紹介
- COUNTERメトリックの紹介
- COUNTERのAttributes, Elements, そのほかの用語について
- COUNTERとオープンアクセス
- COUNTERに準拠するには
- コンソーシアム（団体）向けのCOUNTER
- リリース5.1変更点

このシリーズは、わかりやすい日本語で書かれています。COUNTER実務指針の中の文字列は、正確にはアンダースコアを用いてつながれて表記されます。たとえば、Data Typeは正確にはData_Type、Total Item Investigationsは正式にはTotal_Item_Investigationsと表記されますので、ご注意ください。

この冊子で説明されるもの

リリース5.1におけるコンソーシアム（団体）向けのレポート	3
機関レポートと概要レポートを取得する	3
詳細レポートを取得する	4
注意点	5

リリース5.1におけるコンソーシアム（団体）向けのレポート

リリース5.1では、3つの種類のコンソーシアムレポートがあり、それは概要レポート、詳細レポート、および機関レポートです。

概要レポートは、各機関ごとではなくて、コンソーシアム全体の利用状況を示すレポートです。つまり、コンソーシアムの全メンバーの利用状況が1つの概要のプラットフォームレポート、データベースレポート、タイトルレポート、またはアイテムレポートにまとめられます。なので、概要レポートから個々のメンバー機関の利用状況を表示することはできません。また、概要レポートはリリース5.1において必須のレポートとなっています（オプションではありません）。

機関レポートは、各機関（または各図書館）レベルの個別のレポートであり、集計や要約はされていません。コンソーシアム管理者は、概要レポートと同じログインを使用して、個々のコンソーシアムメンバーの機関レポートを取得できるようにする必要があります。

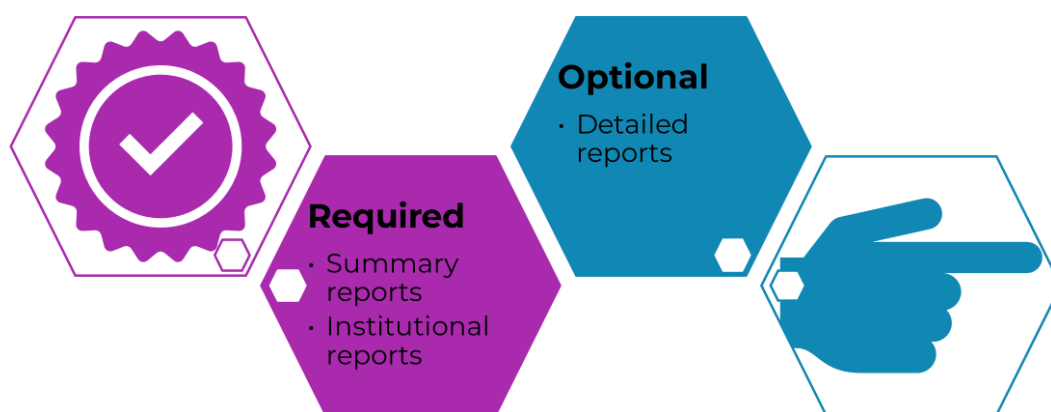


Figure 1. The three types of consortia reporting.

詳細レポートは、機関ごとに分類された集計レポートですが、R5.1においてこのレポートは必須ではありません。これは、レポート作成者が詳細レポートを作成することが場合によっては困難なためです。たとえば、売上と利用のシステムがリンクされていない場合、利用システムにおいてコンソーシアムをモデル化することができない場合があるからです。

機関レポートと概要レポートを取得する

コンソーシアム管理者は、概要レポートの取得を、ほかのCOUNTERレポート取得方法とまったく同じ方法で行います。つまり、出版社の管理人ツールにログインするか、それかSUSHIを介してダウンロードします。

機関レポートを取得するためには、「Harvester Tools」（収穫ツール）と呼ばれるツールを使用することができます。ウェブサイト（<https://projectcounter.org/counter-harvester-tools>）には、これらのツールのリストが掲載されています。Harvester Toolsは通常、COUNTER SUSHIプロトコルを使用しており、これについては「COUNTERレポートの扱い方」で詳しく説明されています。コンソーシアムのメンバー機関の名前と、各機関のSUSHIの認証パスワード等のリストがあれば、コンソーシアム管理者がHarvester Toolを使用してコンソーシアム内の各機関の利用レポートを取得することが可能です。

詳細レポートを取得する

詳細レポートはCOUNTERにおいて必須ではありませんが、出版社は拡張機能を使用して詳細レポート提供することができます（詳細は「COUNTERのAttributes, Elements, そのほかの用語について」の冊子に記載されています）。

詳細レポートを提供するために、出版社はCOUNTERレポートに追加の要素（elements）、すなわち顧客ID（必須）と機関名（任意）を加える必要があります。これらの要素を含めることで、コンソーシアムレベルの詳細レポートを機関ごとに分割することが可能になります。

リリース5.1では、出版社が拡張機能を使用した場合のレポートの一貫性を保つため、いくつかのルールが定められています。

- コンソーシアムレポートで使用する**顧客ID**（Customer ID）は、個々の機関に対するレポートで使用する名前と一致している必要があります。また、/members COUNTER_SUSHI APIパスで返される機関のIDとも一致している必要があります。
- **機関名**（Institution Name）も同様に一致している必要があります。
- 機関名（Institution Name）が使用された場合、機関名はタブ形式のレポートの最初の列に配置される必要があります。そうでない場合、顧客IDが最初の列になります。

拡張機能はCOUNTERレポートにのみ適用されるもので、COUNTERのスタンダード・ビューでは適用されないことにご注意ください。どうしてもスタンダード・ビューを使用したい場合は、関連するCOUNTERレポートにフィルターを適用してスタンダード・ビューを作り出す必要があります。たとえば、データタイプが本、アクセスタイプがコントロールされたもの（Controlled）、アクセス方法が通常（Regular）の場合は、タイトルレポートにフィルターを適用すれば、TR_B1 のスタンダード・ビューを作り出すことができます。フィルターの詳細については、「COUNTER レポートの扱い方」をご覧ください。

注意点

コンソーシアムのレポートをリクエストした場合、個々の機関で利用可能なすべての出版物の使用状況ではなく、コンソーシアムを通じて購入された出版物の使用状況のみしか表示されていない場合があります。その場合、レポート作成者はSUSHI APIの/membersのパスにおいてこのことを明確に表示する義務があります。逆に、一部のレポート作成者は、別々に購入された出版物も含め、コンソーシアムのメンバーが使用した全出版物を表示する場合があります。

また、コンソーシアムレポートは、コンソーシアム内の複数の機関に使用が重複する場合などに（IP範囲が重複する場合など）、機関のレポートと若干異なる場合があります（詳細は「COUNTERとオープンアクセス」を参照）。

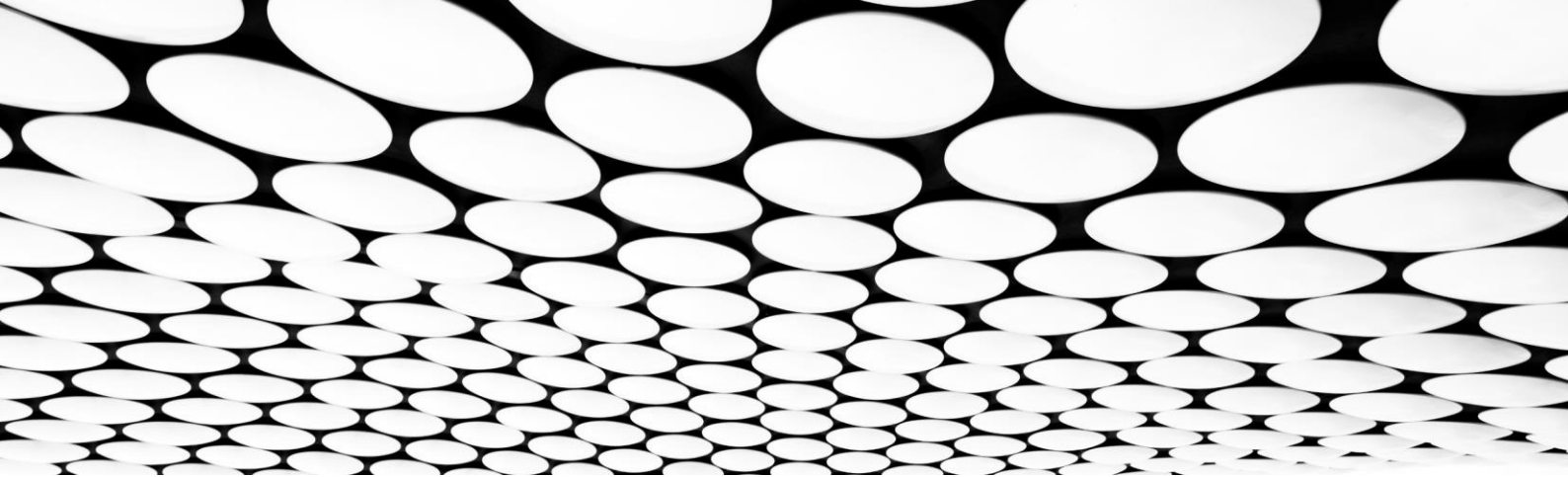
最後に、一部の機関や図書館は自分たちの使用状況データをプライベートな情報と見なしているため、コンソーシアムレポートへの参加を見送る選択することもできます。ただそういった場合、当然コンソーシアムレポートで表示されるメトリックに影響を与えます。

より詳しい情報について

より詳しい情報については、Code of Practice (<https://cop5.projectcounter.org/en/5.1>) とCOUNTER Media Library (medialibrary.projectcounter.org) をご覧ください。

答えがどこにも見当たらないご質問がある場合は、当社のプロジェクト・ディレクターの下記のメールアドレスにご一報ください。

tasha.mellins-cohen@counterusage.org



COUNTER

Thanks to our generous sponsors,
Friendly Guides will soon be available in...

Chinese

Sponsored by SpringerNature

SPRINGER NATURE

German

Sponsored by Thieme



Spanish

Sponsored by Gale



French

Translated by the Couperin Consortium and
the Canadian Research Knowledge Network

Japanese

Translated by Yuimi Hlasten, Denison College

